

「弁当の日」を実施します

柏木 博之

あっという間に2月も終わろうとしています。卒業式まであと2週間、25年度も残りわずかになってきました。忙しい時期ですが、3月10日(月)に「弁当の日」を実施することにしました。給食の時間に、家で自分が作った弁当を食べる日です。今回、中学生だけ実施します。

「弁当の日」の実践は香川県の小中学校長だった竹下和男先生が平成13年に始めました。竹下先生は新任校長として赴任した滝宮小学校で、食べ物の好き嫌いでなく、食べることに全く関心を示さない子の存在に驚きます。食べることそのものが彼らには苦行のように見えたそうです。このような子供にどうしたらいいか竹下先生が考えた末にたどりついたのが、「弁当の日」でした。私も以前勤務した学校の朝食調べで「ジャムパン」「メロンパン」「シュークリームとお菓子」という回答があり、「なんだこの食生活は!」と思いました。学校でできることはないか考えましたが、そのときは何もできませんでした。

昨今の若者の食生活の乱れも多く報告されています。「食べることは生きること、生きることは食べること」食の乱れは命の乱れに直結します。福岡の内田産婦人科医院助産師内田美智子さんは、「望まない妊娠をした10代の子で、ちゃんにご飯を家で食べていた子は、1人も来なかった。食の大切さに気付かされた。」と言っています。自分がしてもらえなかったら、やがて自分もしてやらないと言う連鎖が生まれるかもしれません。そうならないために、自分がしてほしかったことを将来の自分の子供にもしてやれるようになってほしいと思います。

「弁当の日」は、鹿児島県内でも枕崎中学校をはじめ約30校実施し、給食残食量の減少や家で手伝いをする子供の増加等の効果をあげています。いずれ島立ちをする本校の子供たちが、命をいただいていることや食事ができるまでに多くの人々が苦勞していることなどを学び、家族の絆を深めて自立していくことを期待しています。

立志式で自覚を深める

克己と実行を肝に銘じ、これからの人生を歩んでいきます。



7日(金)に三島小中学校では立志式が開催されました。島民の皆様のご出席をありがとうございました。立志式は15を迎える早春に行われる行事です。それは、大人の仲間入りとなる昔の「元服」になっているとも、孔子の論語「吾十有五にして學に志す」に由来するとも言われています。今年の対象者は中学二年の柳野安海さんでした。柳野さんは発表の中で「克己と実行を肝に銘じ、これからの人生を歩んでいきます。」と述べました。

記念講演では、宮城県気仙沼市立大島小学校元校長菊田榮四郎先生に「震災と復興のなかで」をテーマにお話をしてくださいました。菊田先生は全国を行脚され校長を辞めても被災児たちのために何らかの活動をしていきたい。」という思いでいらっしゃいます。菊田先生自身もご自宅を流されました。当時、中学校のプールの水を浄化して飲んでいただけ、アメリカ海兵隊が支援しにきてくれて助かったと思ったこと、少しずつではあるけれど復興に向かって東北は頑張っていることなどの話をしてくださいました。講演へのお礼として「復興支援ソング『花は咲く』」を会場のみinnで歌ったことも素敵な思い出になりました。

火山活動から身を守れ！ 防災寺子屋で学ぶ

25日(火)桜島の正3年の噴火に関する「巡回防災寺子屋」を実施しました。講師に鹿児島地方気象台観測予報課(火山班)の職員の方をお迎えし、「三島村の火山硫黄岳」というテーマで、大正噴火の特徴、前兆現象のほか、硫黄岳が噴火した際の避難などに関する講話をして頂きました。火山島である硫黄島に暮らす子供たちにとって火山に対する有意義な学びの時間となりました。3月8日に行われる硫黄島防災訓練に向けて子供たちは予備知識を得ることができました。

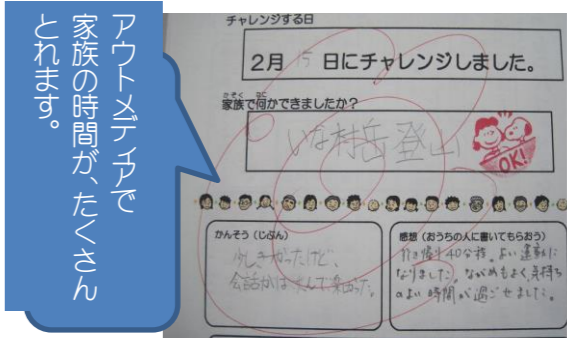
大好きな硫黄島だからこそいろいろな角度から学ぶことが大切に思われます。



学校保健委員会開催

26日(水)に学校保健委員会が開催されました。アウトメディアに関する取組の振り返りが行われました。「大人の方がテレビを消すことに対して抵抗がありました。子供が、今日はアウトメディアの日だからと意識して行動していました。」という意見が出されました。食育の充実を考えて「弁当の日」を実施することになりました。

家庭科で学んだ知識と技能を生かして、またおうちの方にアドバイスをいただきながら食に対して楽しくまっすぐに向き合ってください。



アウトメディアで家族の時間がたくさんとれます。